

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

宮城県 塩竈市

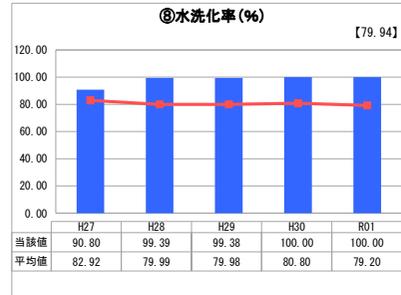
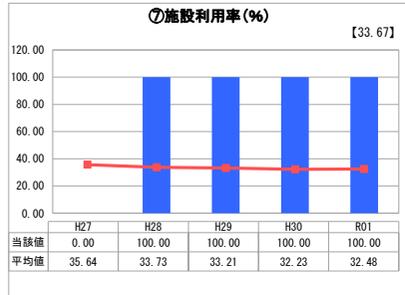
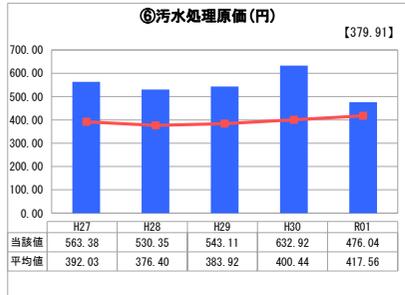
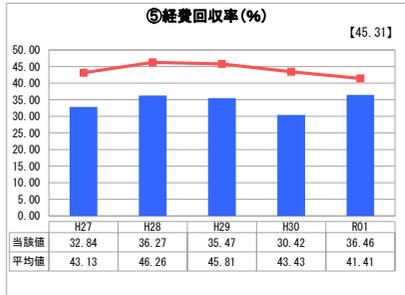
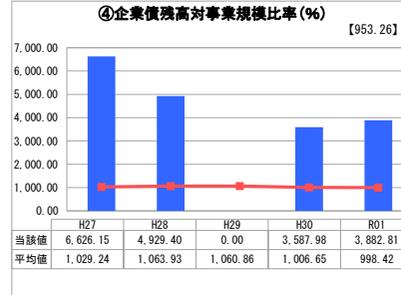
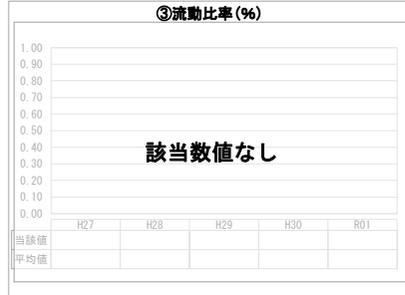
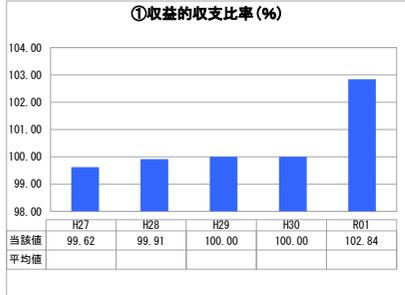
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	漁業集落排水	H2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.29	12.56	3,300

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
53,975	17.37	3,107.37
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
158	0.12	1,316.67

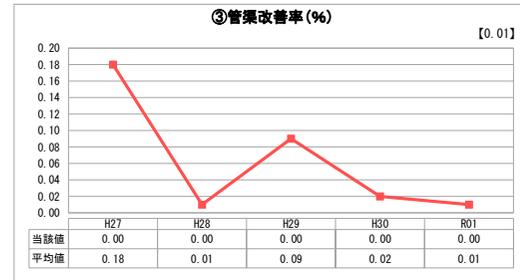
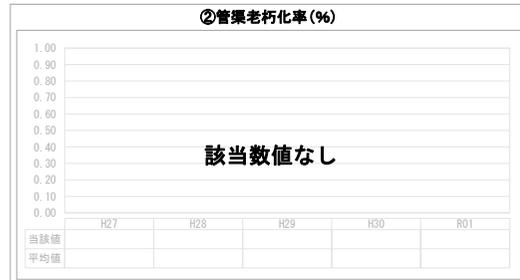
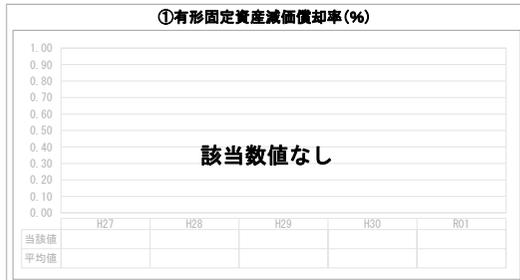
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率については基本的には100%未満で推移しており、単年度収支で慢性的な赤字状態にあるといえます。この状況は当該施設が過疎化の進む離島に存していることから、利用者の増加が見込めないことに起因しています。令和元年度においては、公営企業会計事業移行に伴い一般会計繰入金が生じた関係で、一時的に数値が上昇しております。

④企業債残高対事業規模比率については、平均値を大きく上回っており、今年度微増しておりますが、全体を通して減少傾向にあります。令和2年度に計画しているストックマネジメント事業の進捗を見据えながら今後の起債については慎重に検証すべきであるといえます。

⑤経費回収率については、平均値を下回っており使用料収入についての見通しが課題となっております。使用料収入においては、設立当初から本土地区と比べ安価に設定されていた経緯があり、今後整合性を図る方向で検討していきます。

⑥汚水処理原価については、平均値を上回っており、類似団体と比較して割高な経費であるといえますが、過疎化島嶼部のため、他地域と比べ人口規模に対して施設規模が相対的に大きいため維持コストが高いものと分析します。

⑦施設利用率については平均値を上回っており、施設が効率的に運用されているといえます。

⑧水洗化率については概ね平均値を上回っており、震災被害により一時的に利用者が減っていましたが、施設の復旧に伴い回復しました。

### 2. 老朽化の状況について

③管渠改善率については、平均値を下回っており、管渠の更新投資の必要性がうかがえる状況といえます。しかしながら現在不健全の箇所については、東日本大震災によるものですが、今般被災した管渠の復旧工事を行っており、令和2年度において完了する見込みであるため直近で更新が必要な管渠はありません。令和2年度でストックマネジメント調査策定業務委託を行っており、今後効率性を重視した施設の管理計画を立てていく予定です。

## 全体総括

本市漁業集落排水事業は、その立地が過疎化の進む離島という特殊条件から、新規の利用者の増加を見込むことが困難であるうえ、現状の処理区域内人口では経営自体が非常に困難であるといわざるを得ません。

令和2年度に予定している公営企業会計の一部適用と公共下水道事業との統合を踏まえて、長期的な視点に立つ財政計画のもと、現状の施設の効率化と老朽化対策に取り組みながら、ダウンサイジング化も検討しつつ、一層の事業運営の効率化に努めてまいります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。